

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣北高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年1月31日 (金) 13:30~15:30
- 3 開催場所 大垣北高等学校会議室
- 4 参加者
- |       |   |  |
|-------|---|--|
| 会 長   | 田村 弘司   | 元岐阜県教育委員会教育次長<br>元岐阜県高等学校長協会 会長  |
| 委 員   | 安藤 光男<br>伊藤三枝子<br>上野 和幸<br>原田 理人<br>牧岡さつき                 | 大垣国際交流協会 常務理事<br>清流の国ぎふ女性防災士会 会長<br>本校育友会 会長<br>岐阜協立大学 学長<br>大垣市男女共同参画推進室 室長 |
| <欠席者> |   |  |
| 副会長   | 兒玉 榮一   | 本校同窓会 会長   |
| 委 員   | 種田千佳子<br>堤 俊彦<br>山田 治美                                    | (株)種田石油店 代表取締役社長<br>大垣市体育連盟 会長<br>大垣市立北小学校 校長                                |
| 学校側   | 小野 悟<br>寺倉 新一<br>曾根 章好<br>澤田 尚子<br>田中 卓哉<br>松野 智博<br>中島 啓 | 校長<br>事務部長<br>教頭<br>教頭<br>教務部長 (教務主任)<br>進路支援部長 (進路指導主事)<br>生活充実部長 (生徒指導主事)  |

## 5 会議の概要 (協議事項)

(1) 「高等学校に期待される社会的役割等 (スクールミッション)」の策定について  
(出席委員全員 承認)

(2) スクールポリシーの改定について  
(出席委員全員 承認)

(3) 自己評価・学校関係者評価報告書について

意見1: ABC等の評価 (自己評価) については、評価をするために客観的な資料が必要である。  
個々に指標を作成して見える化するとよい。

⇒ このことについては、前回協議会 (第2回) の学校評価アンケートの結果においてもご意見をいただいております。来年度においては、年度当初に立てる目標を「はかれる」ものにすることを検討したい。

意見2: 完璧でなければ評価Aにならないわけでない。継続した取組がある場合、前回より進歩したり、できたことがあったりすればBにする必要はない。目標を設定して適切に評価すること

が大切である。自信をもって評価を付けてほしい。

意見3：（授業研究について）自分の教科以外の授業を見学することは大変参考になる。時期を決めると、教員も自由に見学できる。推進してほしい。

意見4：「スフィア基準（スタンダード）」を知っているか。災害や紛争の被害者に対する人道支援活動のために策定されたものである。人道・人権の立場で、人にやさしい学校、人間らしく生きること、人道の知見から人と接すること等について一度考えてほしい。

#### （4）今年度の反省と来年度へのご提言（学校関係者評価）

意見5：全体的に学校全体で一生懸命取り組んでいる。国際交流協会または同窓会役員の立場で、本校を見る機会が多いが、本日の自然科学部の発表も大変すばらしかった。本日発表した生徒は、今後どんな形で進学し、その後どうなったか追跡調査を是非お願いしたい。また、部活動支援などに同窓会を大いに活用できる。同窓会として素晴らしい活動には支援したい。

意見6：保護者として本校と3年間歩むことができた。子どもが本校で教育を受けることができ大変うれしかった。各種会議に出席した折、感動した言葉がある。「大垣北高校はたった一人の生徒も置いていかない指導」という言葉である。子どもは一人ひとり思っていること、考えていることも違い、同じものを見ても違うように感じる。その子どもたち一人ひとりに対応していることに感謝している。

意見7：令和6年度は創立130周年行事があり、生徒一人ひとりを具に見た。確実に教職員の努力と尽力のおかげで成果が顕著に上がっていると感じる。学校評価については、生徒指導や学習指導の項目はAでもよい。改善は常に必要であり、それがBとはならない。自信をもって自己評価し、自身の励みとしてほしい。

意見8：評価の視点を明確化、数値で評価する等推進してほしい。男女共同参画の立場から、理系の女性活躍を推進している。今後も活躍を後押ししてほしい。

意見9：本校の生徒は無限の力を持っている。しかし、優秀な生徒が周りに多く、自分を低く評価しがちである。そのような場合は、経験を積ませることが大切である。本県の子どもは全体的に内向きの傾向がある。しかし、経験をすることで自信をもち、達成感を味わわせることが大切である。「探究の日2025」（「総合的な探究の時間」成果発表会 3月17日岐阜協立大学にて開催）は生徒が自信を持つ、自らの経験を積むよいチャンスである。このような学校行事や学習を通して生徒が物事や善悪を判断できる力、生徒自身が評価できる力を身に付けさせたい。

## 6 会議のまとめ

「高等学校に期待される社会的役割等（スクールミッション）」の策定に向けて、第1回・第2回学校運営協議会を経て教育委員会に提出した原案から一部修正したものが教育委員会より提案された。修正案について委員から承認が得られた。

また、スクールミッションの策定に伴って、学校から委員にスクールポリシーの改定案を示し、賛同を得られた。

年度当初に学校が設定した「教育指導の重点及び学校経営計画」について取組状況や実践内容とその進捗状況から自己評価し、成果と課題を示した。それを踏まえて、来年度に向けての改善方策等を提案した。各委員からは、評価の指標や根拠についても貴重な意見が得られた。

委員からのご意見ご助言をもとに教育活動を見直し、来年度の学校運営に活かしていきたい。